

第 6 回リンダウ・ノーベル賞受賞者会議 参加報告書 兼 アンケート

所属機関・部局・職名: 大阪大学社会経済研究所 研究員

氏名: 澤田 有希子

1. ノーベル賞受賞者の講演を聴いて、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。[全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。]

今回のリンダウ会議では 17 人のノーベル賞受賞者によるレクチャーがあり、それぞれの専門分野もマクロ、ミクロ、ゲーム理論、計量経済学など多岐にわたりました。また発表内容も、自身の現在進めておられる研究の紹介や、研究分野の総括に至るまで様々でした。そうそうたる顔ぶれの研究者が一堂に会し、彼らが今感じ、考えていることに触れる非常に貴重な経験をできたと感じています。

Pissarides 教授は AI 技術の発達が労働市場に与える影響についての報告をされていました。AI 技術の目覚ましい飛躍によって近年日本国内でも議論が活発になっているトピックであり、とても興味深かったです。コンピューターによってどのような仕事が奪われるかという失業の側面だけでなく、新たに生まれる仕事の可能性についても言及されていました。こうした状況に対応した政府による教育に対する政策が必要であると強調されていました。

Hart 教授は企業の社会的責任に関する研究に関して報告をされていました。株主の厚生と株主の最大化の違いを論理的に説明されたうえで、企業の戦略を決める際の株主による投票について言及されていたのが新しい視点だと感じました。

Maskin 教授は現行の大統領選挙システムについて、アメリカやフランスの過去の実例を挙げながら制度の持つ欠点を非常にクリアに説明されていました。また、より優れた選挙システムについての提案もされており、非常に論理的で、専門外の人にもわかりやすい報告内容で、間違いなく聴衆の心を一番つかんでいた素晴らしいスピーチでした。

2. ノーベル賞受賞者とのディスカッション、インフォーマルな交流(食事、休憩時間やエクスカージョン等での交流)の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。[全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。]

ノーベル賞受賞者は総じてフレンドリーで、なかなか英語がうまく出てこないときもこちらの意図をくみ取って、親切に対応してくれました。食事や休憩時間のときも彼らは積極的に若手研究者のテーブルをまわっており、非常に交流を楽しまれているようでした。

なかでも Schmidt 教授は群を抜いて気さくな方でした。彼は 2011 年のノーベル物理学賞の受賞者で、よくリンダウ会議に参加されているそうです。経済学分野の会議で、宇宙物理のスーパースターに会えると思っておらずとても感激しました。彼との話の中でとても印象的だったのは、物理学者は経済学、とくにファイナンスの分野に興味を持っている人が多いということでした。彼の現在進行中の研究の話も聞くことができると

も貴重な経験をすることができました。

Pissarides 教授は、若手研究者との交流を非常に楽しんでおられるようでした。とても日本に興味を持ってくれていて、私が日本人だと知るととても喜んで、日本の桜の話や企業の話などいろいろ話を聞いてくださいました。私自身の研究の話も真摯に聞いてくださって、他では得ることのできない機会でした。

Tirole 教授はお話のなかで理論研究の重要性について強調されていて、理論研究をしている身としてはとても励みになりましたし、勇気づけられました。またボートトリップの際には奥様とダンスホールでダンスを楽しまれており、研究の話をしている時とは違う一面を見ることができ、リンダウ会議ならではの経験だと強く感じました。

3. 諸外国の参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

世界各国の若手経済学者との出会いが、今回のリンダウ会議における一番の収穫となりました。

自分と同じ境遇、同じ年代の研究者が一堂に会し、交流ができる機会はめったにないと思います。お互いの国の就職事情や研究分野の話から、プライベートな話まで、若手研究者同士だからこそできる話を多くしました。そのなかでも私が強く印象を受けたのは経済学に対する姿勢です。

彼らは現実の社会問題に強く関心を持っていて、自身の国の教育制度や所得格差の問題など、自分の専門分野以外のトピックに関しても自分自身で考え、議論するという姿勢に心動かされました。

日本国内で過ごしていると、どうしても目先の就職活動や、論文の本数に気を取られがちです。自分たちの研究がどのように現実と結びついていくのかを強く意識して研究活動に取り組むべきだと強く思いました。

リンダウ会議で今までにない密度で他の若手経済学者と交流し、彼らの考えや経済学に対する情熱を感じることができ、私自身も考えを改めさせられる場面が多くありました。

4. 日本からの参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

日本人の参加者の中には所属大学が同じ方もいたのですが、日本ではなかなかお話しする機会がなかったので、リンダウ会議の時に色々貴重なお話を聞くことができました。論文執筆に関して有意義なアドバイスをもらい、また、ドイツに住まっていたことがあったようで、ドイツでの暮らしについてもお話を聞くことができ非常に有意義な時間を過ごせました。

5. 特に良かったと思うリンダウ会議のプログラム(イベント)を3つ挙げ、その理由も記載してください。

1 つ目はリンダウ会議の前夜祭として行われた夕食会です。まずそこで多くの若手研究者との親睦を深めました。お互いの研究分野の話や就職活動の状況などの情報交換を行いました。会議に先立って若手研究者の交流ができたのは非常に良かったと思います。

2つ目はババリアンイブニングというリンダウ会議の終盤に行われるパーティです。何人かの参加者は伝統的なコスチュームに身を包み、現地の伝統的な音楽を聴きながら参加者とともにビールと食事を楽しみました。写真を撮ってノーベル賞受賞者にサインをもらっている人もいて、お祭りのような雰囲気です。非常に貴重な経験でした。

最終日のマイナウ島でのイベントもとても印象的でした。会議を行っていたリンダウ島から大きなボートに乗り、自然がとても美しいマイナウ島というところに行きました。そこでは、ピクニックをしたり、ガーデンの中でパネルディスカッションをしたりと、普段経験できない環境を体験することができました。

6. その他に、リンダウ会議への参加を通して得られた研究活動におけるメリット〔具体的な研究交流の展望がもてた場合にはその予定等を記載してください。〕

会議を通して、自分と近い分野を専門とする多くの若手研究者と議論することができました。特に、幅広い国のデータを扱う研究者と出会うことができ、彼らから具体的なデータの特性や、傾向などを聞くことができました。私は理論分析を主にしているので、非常に刺激を受け、今後の自身の研究に生かしていきたいと強く感じました。

7. リンダウ会議への参加を通して得られた上記の成果を今後どのように日本国内に還元できると思うか。

今回の会議を通して、改めて、視野を広く持ち学問に取り組むことの大切さを強く感じました。今後は自身の研究を行う上で、専門分野だけではなく他分野にも広く目を向けて、自分の研究成果が社会問題の解決にどのように結びつくかについて強く意識をもちながら研究を行っていきたいと思いました。

8. 今後、リンダウ会議に参加を希望する者へのアドバイスやメッセージ

ノーベル賞受賞者や若手研究者と数日間にわたってこのように深く交流する機会には他にないと思います。参加者はキャリアや国籍関係なく皆さんとてもフレンドリーでした。あっという間に時間は過ぎるので積極的に交流して有意義な時間を過ごしてほしいです。

リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業
平成 29 年度 参加者アンケート

今後の事業改善の参考にいたしますので、アンケートにご協力くださるようお願いいたします。

1. 本事業をどのような経緯で知りましたか。(複数回答可)

- JSPS の HP
- JSPS のメールマガジン(JSPS Monthly)
- JSPS からのメールでの案内
- 所属機関からの案内
- 所属学会の HP、メールマガジン
- 日本人研究者からの案内(具体的に:所属機関の教員からの紹介)
- 外国人研究者からの案内
- その他(具体的に: _____)

2. リンダウ・ノーベル賞受賞者会議に参加して、どのような影響がありましたか。(複数回答可)

- 学術的な視野が広がった。
- 通常の国際学会では得られないような助言を受けることができた。
- 国際的な場で研究活動を行いたい、という希望が強まった。
- 将来、大学や学会等でリーダーとして活躍したい、という希望が強まった。
- 共同研究等の持続的な研究交流のパートナーが見つかった。
- 自身を研究者として受け入れる研究室が見つかった。
- web やメールではなく、顔を合わせた議論や交流の重要性を認識した。

3. 他の日本人若手研究者にも本事業への参加を勧めたいと思いますか。

- はい
- いいえ

4. 本事業について改善すべき点や、本事業の認知度を上げるためのアイデアがあれば、具体的にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。